



中四国 いんぷおめへしよん

2022年2月
第43号

企画・発行 日本赤十字社中四国ブロック血液センター 学術情報課 Tel 082-241-1619
協力 中四国ブロック内各赤十字血液センター



学会認定アフゼーシスナース

アフゼーシス (apheresis) とは、もともとギリシア語で「分離」を意味します。現在では、体外循環によって血液中から血漿成分、細胞成分を分離する、さらには分離した血漿成分から病気の原因となる液性因子を分離することをさし、生体内のさまざまな血液関連因子を分離除去して治療する広範な医療技術を総称する呼称となっています。

血液事業における看護師は、原料血液の採取を行うだけでなく、その血液の高品質を維持するとともに献血者の安全を確保するという役割を担っています。

中四国ブロック内の血液センターには、現在182名の看護師がおり、そのうち約34% (62名) がアフゼーシスナースの認定資格を取得しています(表)。献血ルームなどの固定施設では成分採血を実施し、アフゼーシスナースを中心に様々な取り組みを行っています。

中四国ブロック内のアフゼーシスナースの取り組みの事例として、成分採血装置へのセッティング時のキット装着ミスが、件数管理を行っていたにもかかわらずゼロにはならなかったこと、成分採血キット装着ミスは資材の減損や原料血液が確保できないだけでなく、原料血液の品質や献血者の健康状態に影響する可能性があることから、アフゼーシスの安全性を高めるために成分採血キット装着に特化した「成分採血インシデント事例集」を作成しました。

事例集の作成にあたっては、当ブロック内で提出されたキット装着ミスに関するインシデント事例を抽出し、選択した事例について、観察ポイント、事例に伴う危険性及び対応策などを検討しました(図)。

この事例集を活用し、新人研修だけでなく既存の看護師にも継続教育したところ、①注意事項や観察するポイントについてはカラー写真が多くわかりやすい、②原因についても細かく記載され、注意することが容易である、③献血者の健康被害、原料の減損等に繋がるリスクを理解することができた、などの評価がありました。今回の事例集の作成及び活用により、当ブロック内でのキット装着ミスにおける対応についての判断など、成分採血に携わる看護師の意識統一を図ることができました。これは現場に即した実践能力を持ったアフゼーシスナースの成果であると感じています。

今後は、活用方法を検討し、定期的な見直しを行うと共に活用前後のインシデント発生数の評価を行い、安全なアフゼーシスに寄与した取り組みを継続していきたいと思います。

センター	アフゼーシスナース 認定者数(名)
鳥取	2
島根	2
岡山	14
広島	16
山口	4
徳島	3
香川	8
愛媛	8
高知	4
ブロック	1
計	62

(表) 中四国内アフゼーシスナース
認定者数 (2021年4月1日時点)



(図) 「成分採血インシデント事例集」
一部抜粋

学会認定アフゼーシスナース資格とは？

日本輸血・細胞治療学会においてアフゼーシスの正しい知識を有し、アフゼーシスを受けるドナーと患者への的確な看護を実践し、アフゼーシスの安全性の向上に寄与することのできる看護師を育成する制度に基づく資格です。

(中四国ブロック血液センター 献血管理課 後藤勝美)

血液製剤発注システム(BOsシステム)推進の一年間

2020年(令和2年)11月より、血液製剤発注システム(以下、Web発注システム)が新しくなりました。これに伴い、この1年間、Web発注システムの普及を推進して参りましたので、ご紹介いたします。

○新Web発注システム導入のメリット

- ① 旧Web発注システムよりも操作性が向上し、使いやすくなりました。
- ② 院内在庫からの抗原情報検索が可能です。
- ③ 発注履歴・実績をデータ化することが可能です。
- ④ 事務処理が軽減される分、緊急の複数製剤発注の際等に、少しでも早く医療機関へ配達することができます。
- ⑤ 災害時にはFAXよりも使用できる可能性が高いと考えられます。

※インターネット環境さえあれば、導入費用は一切かかりません!

○高知県赤十字血液センターの状況

2020年10月時点における高知県下のWeb発注システム利用率は**0.4%**と大変低く、全国平均や中四国ブロックの平均値を大きく下回っていました。

しかし、この一年で**54.7%**(**2021年11月時点**)まで上昇し、全国平均並みになりました。

ご協力いただいている医療機関の皆さまのおかげです。ありがとうございます。



○高知県赤十字血液センターの取り組みと今後



この一年、数値上は著しい躍進を遂げましたが、推進活動としてはコツコツとした呼びかけでした。血液製剤を納品した折にインターネット環境をお聞きし、Web発注システム導入のご案内をしたり、ときにはデモ実演もさせていただきました。中には、無理を言って運用にご協力いただいた医療機関もありましたが、初めてWeb発注をいただけたときには大変嬉しく、感謝の気持ちがあふれてきました。

2022年1月以降には、医療機関様からのご意見を取り入れたさらなる改修を予定しております。各医療機関の皆さまに少しでも多くご活用いただければ幸いです。